心を動かす、
日本を元気にする
観光・レジャーのプロデューサー
応援情報誌

とーりまかし

vol.54
2018年12月号

目次

地域と世界を進化させる
社会変容技法の科学
島根県海士町・宮崎県新富町
2 コクリ！メソッド2018

リタイアor現役？団塊以前orバブル世代？その多面性に迫る
16 最新シニア旅行者像

え？ここに泊まれるの？駅舎、印刷工場、博物館…
24 〝想定外〟のコンセプト宿

連載
他業界から学ぶマーケティング事例
30 Marketing Crossing「結果にコミット」を端的に示したRIZAPのCMに込められた想いとは

価値と感動を生み出す人にインタビュー
32 「マエストロの肖像」民謡歌手 伊藤多喜雄

From Local
34 世界に誇る まち・むらのしごと うるしびと（岩手県）

とーりまかし [tōrimawa kasshi]

インドネシア語で「ありがとう」の意。

日頃からお世話になっているクライアントのみなさまにありがとう、読者のみなさまにありがとう、そして私たちに知恵を提供してくれるすべてのみなさまにありがとう、という感謝の気持ちを込めて、この名前をつけました。ちなみに、じゃらん「jalan」もインドネシア語で、「道」「プロセス」の意味です。「jalan jalan」で、「散歩する」「ブラブラ出かける」「旅行する」などの意味になります。

地域コ・クリエーション研究
（旧・地域イノベーション研究）
第10弾

地域と世界を進化させる社会変容技法の科学

島根県海士町・宮崎県新富町

コクリ！メソッド2018

私たちじゃらんリサーチセンター（JRC）は、2011年から「地域コ・クリエーション研究」（旧・地域イノベーション研究）を行ってきた。現在は「コクリ！プロジェクト」と名前を変え、さらに2016年末からは「コクリ！2・0」に進化を遂げている。今回は、島根県海士町・宮崎県新富町の事例を示しながら、その研究と方法論の現在地を紹介する。

イラスト＝武曽宏幸

「地域づくりの第五の方法」を研究している

日本では、さまざまな方法で地域づくりが行われている。比較的多いのは、次のようなパターンだろう。

①ご当地キャラクターのように、他の地域の成功事例を踏まえて横展開して地域を盛り上げる
②地域内の異端児や、地域外からやって来た「よそ者」がリードして地域を盛り上げる
③地域外の企業などとのコラボレーションによって地域を盛り上げる
④地域内対話によって、地域のキーパーソン同士のつながりをつくったり、彼らの主体性を高めたりして地域を盛り上げる（地域コ・クリエーション）

いずれの方法も有力で、どれが良くてどれが悪いとは一概に言えない。なお、以前のコクリ！プロジェクトは④を研究しており、その成果は「ジバ観（詳細は「とーりまかし」52号）」が継承している。

2016年末から始めた「コクリ！2・0」では、これらのすべてと異なる「地域づくりの第五の方法」を研究している。それは、「地域内×地域外」のメンバーで2～3日にわたって対話を行う場創りのメソッドだ。しかも、その場の参加者には、いったん「未分化」の状態を通過してもらった上で、「集合的なひらめき」を生み出すことにチャレンジしてもらう（詳しい説明は4～7ページに掲載）。

その手法によって生み出したいのは、「一人ひとりが自分なりの使命に従って、持続的・主体的にチャレンジし合い、その地域らしいクリエーションを起こしていく地域コミュニティ」である。そのメンバーは、地域の底に眠る願いや希望を「地域ビジョン」として共有しながら、地域らしさあふれるアイデアを生み出し、皆で実行するようになっていく。

他地域の成功事例をむやみに参考にせず、地域リーダーだけに頼らず、単なるコラボレーションとは一線を画す新たな地域づくりの手法を生み出すことで、地域づくりを一層豊かにしたい。それがコクリ！2・0の研究メンバーの想いだ。

コクリ！メソッド2018

理論編

「未分化」を通過することで「その地域らしい創造」が起こる

コクリ！2・0は、いったい何を目的にしており、何をどのように行っているのか。コクリ！2・0のあり方・行動指針を示す「コクリ！7ヶ条」をベースにして、その理論構造の全体像を説明する。

コクリ！プロジェクトの概要2018

2016年末から始めた「コクリ！2・0」研究を継続中

コクリ！プロジェクトの研究や活動は、「とーりまかし」32号・33号・38号・44号・49号で説明してきたが、改めて簡単にその歴史に触れる。

コクリ！プロジェクトは、2011年からの3年ほどで、地域の共創を促す「地域コ・クリエーション」を研究した後、次の3年ほどで、各地域や都市の多様なメンバーがお互いにつながって学び合うコクリ！キャンプ、コクリ！ラボなどの「全国コミュニティ」を醸成してきた。そして、2016年末からは、地域変容と社会変容を同時に起こす研究「コクリ！2・0」に入った（図1）。2018年も、コクリ！2・0研究を継続している。

なお、コクリ！2・0は、嘉村賢州さん（NPO法人 場とつながりラボhome's vi代表理事、東京工業大学特任准教授）、太田直樹さん（前総務大臣補佐官・New Stories代表）、橋本洋二郎さん（株式会社ToBeings代表取締役社長）、山崎繭加さん（華道家、ハーバードビジネスレビュー 特任編集委員）、太刀川英輔さん（NOSIGNER代表・慶應SDM特別招聘准教授）といったメンバーとともに進めている。

海士町・新富町などで5つの実証実験を行った

コクリ！2・0で行っていることは、大きく2つに分けられる。

①研究：メンバーたちは毎週のように集まり、対話や勉強会などを通して、地域変容や社会変容をどう起こせばよいかを研究し、より良い仮説やプログラムを組み立てている（4～7ページ）。

②実証実験：こうした研究で生まれた仮説を検証する場として、2018年は5つの実証実験を行った。

- GI探究ディ（3月）
- コクリ！研究合宿（6月）
- GI探究ジャーニー in 新富町（7月）
- GI探究ジャーニー in 海士町（9月）
- コクリ！キャンプ2018（11月）

今回の記事では、「GI探究ジャーニー in 海士町」と「GI探究ジャーニー in 新富町」を詳しく紹介する（8～15ページ）。

図1 コクリ！プロジェクトの歴史

コクリ！プロジェクトは、地域コ・クリエーションから全国コミュニティに進化した後、コクリ！2.0になって、改めて「地域」に戻ってきた。しかし、コクリ！2.0は、地域コ・クリエーションと比較すると、大きく進化した点がいくつもある。

コクリ！プロジェクトの方法2018

最も重視しているのは「社会の進化」の創発だ

コクリ！2・0が目指すのは、次の3つを同時に実現することだ。そこに大きな特徴があると考えている。

①「地域コミュニティ」の創造
　実証実験を行う各地域に、自ら変わり続ける力を備えた「地域コミュニティ」を創ること

②「コクリ！文化」の醸成
　コクリ！メンバー（コクリ！に積極的に出席するメンバー）を中心に、豊かな「コ・クリエーション文化」を備えたコミュニティを創ること

③「社会の進化」の創発
　コクリ！の場の参加者全員で集合的なひらめきを生み出し、「社会の進化」を起こすこと

この中で、コクリ！2・0が最も重視しているのは「社会の進化」の創発だ。しかし、その根本は「地域コミュニティ」と「コクリ！文化」にあるため、この2つを創ることについても決して手を抜くことはない。

これらを実現する「コクリ！の場」は、通常2泊3日で行い、その大部分は対話の時間だ。コクリ！メンバーだけの場を開くこともあるが、コクリ！メンバーが各地域に赴き、「地域の方々＋コクリ！メンバー」で対話する場を創ることが多い。

なお、「コクリ！メンバー」は多彩で、地域行政・地域リーダー・NPO・官僚・企業・教育機関・ファシリテーター・クリエイターといった多様なバックボーンを持った方々が集まっている。彼らが、コクリ！文化を形成する中心的存在だ。

未分化を通過してから集合的なひらめきを生む

コクリ！の場のプログラムは、図2に示す理論・構造に基づいて設計されている。これが2018年時点での最新コクリ！メソッドだ。

「未分化」とは、iPS細胞などの「未分化細胞」から来ている言葉で、自分の心の中にあるさまざまな境界を取り外していくことを指す。具体的には、次の3つがある。

①個人の未分化：普段の役割を溶かし、何にでもなれる状態になること

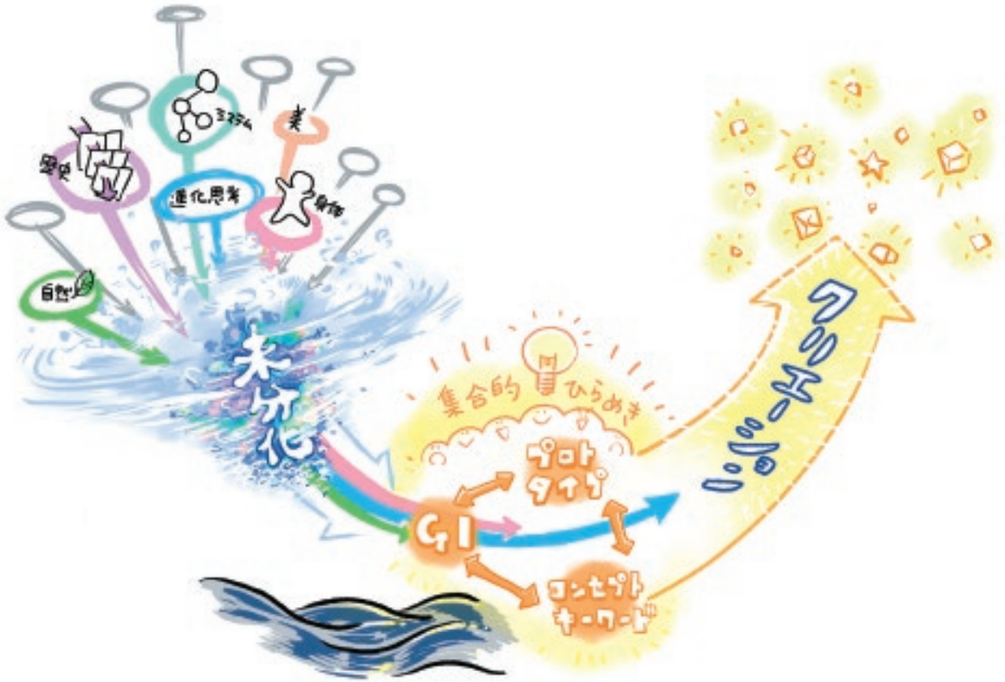
②仲間との未分化：「あなたがわたしでわたしがあなたの状態（自他非分離）」になって、仲間たちの喜怒哀楽や苦しみなどを感じ取ること

③システムとの未分化：世界やシステムの一部として、世界の声、歴史や未来の声に耳を澄ますこと

コクリ！の場のステップ1は、参加者にこの3種類の未分化を通過してもらうことを目指している。

続くステップ2の目的は、未分化状態になった参加者たちが、対話の中から「集合的なひらめき」を生み出し、そのひらめきを「社会の進化」につなげていくことだ。コクリ2・

図2 コクリ！メソッド2018（GIを探究するコ・クリエーションプロセス）



0では、この集合的なひらめきを「GI（ジェネレイティブ・インテンション）」という造語で呼んでいる。大きな社会の進化を起こすための「GIクリエーション」が、コクリ！の場の最も大きな目的である。

地域の皆さんがこうしたコクリ！の場を経験すると、参加者や地域には次のような変化が起こる。

コクリ！2・0の効果

- □一人ひとりが自分の使命を知る
- □一歩を踏み出す勇気が湧いてくる
- □安全安心なコミュニティができる
- □ともに進化する同志ができる
- □チャレンジ文化が生まれる
- □地域やコミュニティに深い愛情を抱くようになる
- □地域の底に眠る願いや希望をビジョンとして共有するようになる
- □地域らしさあふれるアイデアを自ら生み出して皆で実行するようになる

こうした効果が出るのは、参加者が未分化の状態を通過してから、クリエーションを行うからだ。いったん未分化になるからこそ、自分と地域の底に眠る感情・想いに気づき、「自分らしい使命」や「その地域らしさあふれるアイデア」を発見・創造・実現することができるのだ。

コクリ！の場の大部分は対話の場

この全体構造は、コクリ！の参加者に大事にしてもらいたいあり方・行動指針を示す「コクリ！7ヶ条」の流れに沿っている。そこで、ここからはコクリ！7ヶ条をベースに、場の構造を詳しく説明していく。

①自己探究
一、自分の「根っこ」とつながる

コクリ！7ヶ条の1つ目は、「自分の『根っこ』とつながる」だ。

「根っこ」とは、私たちの源であり、生まれてきた意味、自分の使命だ。私たちは、普段は自分の根っこを意識せずに生きている。そこで、コクリ！の場では、参加者に根っことつながってもらうために、最初に必ず、普段の役割をいったん横に置いて、心の深い部分にある願い・祈り・苦しみ・葛藤などと静かに向き合い、それをきっかけにして、自分の根っこを探る時間を用意している。

これは、分かりやすく言い換えれば、「自己探究」のチャンスである。これまで知らなかった自分の想いや、新たな自分の使命に気づくことが、この後の自己変容、信頼構築、GIクリエーションなどに大きな影響を与えうる。

②自己変容
二、恐れを超えて、未知に踏み出そう

コクリ！2・0が最も重視することの1つに、参加者一人ひとりの「自己変容」がある。なぜなら、個人が安全地帯を抜け出して、未知の自分にチャレンジし、「予想だにしない未来の自分」に出会っていくことが、地域変容・社会変容の大きな力となるからだ。「恐れを超えて、未知に踏み出そう」は、コクリ！が極めて大事にするメッセージだ。

私たちはよく、地域が変わる、社会が変わるというが、実際は「個人が変わる」のだ。地域変容・社会変容は、個人変容の積み重ねでしかありえない。一見遠回りに見えるかもしれないが、一人ひとりを変えていくことが、実は地域の「変わり続ける力」を高めることに直結する。

③信頼構築
三、仲間と「根っこ」でつながる

コクリ！の場では、自分の根っこの想いを仲間たちと共有する「ストーリーテリング」の時間を長めに取っている。コクリ！7ヶ条の3つ目、「仲間と『根っこ』でつながる」ことが、その主な目的だ。

言い換えれば、コクリ！2・0では、自己探究・自己変容に加えて、「信頼構築」も同時に行うのだ。そうすることで、参加者たちは単に仲良くなるだけでなく、2泊3日の短期間で、「ともに進化する同志」になっていく。

どのような地域も、キーパーソンの信頼構築が十分でないことが多い。キーパーソンがつながっていないために、地域を変える動きがうまくかないという話もよく耳にする。コクリ！の場では、その信頼構築を互いに自己探究しながら行う。そうすると、強く深い絆が生まれるのだ。これが、地域変容の原動力になる。

また、自己変容をすると、地域で認められることが多い。「アイツは変わった・成長した」という言葉は、地域では明確なプラスだ。地域内の信頼構築が十分なら、たった一人のポジティブな変容が広く影響を及ぼすこともある。その意味でも、自己

変容と信頼構築を同時に進めることには大きな意味がある。

コクリ！の場の場合、それを地域外のコクリ！メンバーも加えて行うため、より面白く、刺激的で、複雑な相乗効果が生まれることが多い。

コクリ！2.0では身体ワークをよく行う

④思考以外の知恵の活用
四、「身体の声」は可能性の扉

コクリ！2・0のプログラムには、身体を使うワークが数多く入っている。多様な身体ワークによって、参加者は身体感覚を取り戻していく。コクリ！の場の大きな特徴だ。

なぜ身体ワークが多いかと言えば、「身体の声」、つまり身体から湧き出てくる喜び・楽しみ・幸せ・違和感・恐れ・不安・怒りといった感情に気づくことが、自分を変え、未知に踏み出していく上で極めて重要だからだ。まさに、「『身体の声』は可能性の扉」なのである。

⑤システムセンシング
五、自分を巡る大きな環に想いを馳せよう

コクリ！の場では、「自分を巡る大きな環に想いを馳せよう」という言葉のもと、先人が紡いできた歴史や遠い未来を感じる時間も多く設けている。例えば、インディアンの智慧から生まれた「7世代ワーク」は、7世代先の未来人になりきり、現代人と対話してもらうワークだ。

こうした時間を経て、参加者は自分が命のバトンをつないでいること、長い時間の流れの中で生きていること、生命・自然・経済・産業のすべてがつながり、互いに影響しあっていることなどに改めて気づく。根っこにつながるだけでなく、一方で自分や地域を包む大きなシステム全体を感じ取る（システムセンシングする）ことで、自分の使命が明確に見えてくることが多い。

⑥GIクリエーション
六、集合的無意識のなかに、次の時代のうねりがある
七、信じる世界を、体現しよう

自己探究・自己変容・信頼構築・思考以外の知恵の活用・システムセンシングを行ったら、「集合的なひらめき＝GI」を生み出す時間だ。

そのためにはまず、「集合的無意識のなかに、次の時代のうねりがある」ことを感じる必要がある。このうねりを感じるためには、多数の人々の無意識の願い・祈り・苦しみ・葛藤、つまり「時代の声なき声」にじっと耳を澄ますほかにない。なぜなら、そのうねりは、確かにそこにあるのだけれど、まだ言葉や概念にはなっていないからだ。

うねりを感じ取ったと思ったら、集合的なひらめきを形にするフェーズに入る。キーワードやコンセプトを創ったり、プロトタイピングで試してみたりするのだ。

コクリ！2・0では、ここで「進化思考」という手法を活用している。これは、生物の進化のプロセスを発想のためのメソッドに応用して、「人の創造性を高め、社会が変わるような新しい価値を生み出す人を増やそう」とする画期的な方法で、コクリ！2・0の中心メンバーの一人・太刀川英輔さんが新たに生み出したものだ。「系統的思考」「擬態的思考」「変形的思考」といった思考ツールを状況に応じて巧みに組み合わせ、価値あるアイデアを生み出していく。進化思考を上手に使えば、集合的なひらめきを形にすることができる。

一度の場で、これだけの「集合的なひらめき」が生まれる

コクリ！メソッド
2018

実践編

海士町と新富町の2地域でコクリ！2・0の実証実験を行った

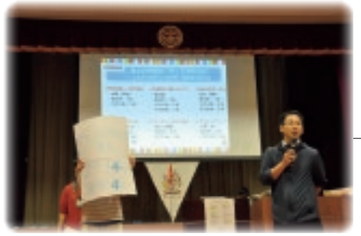
2018年にコクリ！プロジェクトが行った5つの実証実験のうち、地域でコクリ！2・0の理論を試したのは、この2つの事例だ。その概要と流れをごく簡潔に紹介する。

GI探究ジャーニー in 島根県 海士町 あまちょう

場所	島根県隠岐郡海士町
日時	2018年9月14日～16日
参加者	コクリ！メンバー約30名、海士町メンバー約30名

島根県海士町で2回目のコクリ！の場
コクリ！メンバー約30名と海士町メンバー約30名が3日間にわたって対話した。

2018年9月、隠岐諸島の1つ・中ノ島の島根県海士町で、「GI探究ジャーニーin海士町（第2回コクリ！海士）」を開催した。2017年4月の「第1回コクリ！海士」に続く、海士町での2回目の場だ（第1回は「とーりまかし」49号に掲載）。町外から参加したコクリ！メンバー約30名と、海士町内のメンバー約30名が集まって対話を行った。



1日目～2日目午前
海士と仲間と自分の旅路を辿り、「今」に飛び込む

1日目は、コクリ！メンバーが昼に海士町に到着した後、午後に「ストーリーテリング」の時間を取った。5～6名が1チームとなって、仲間に自分の「根っこ」を語ることで、自分と仲間の「根っこ」につながり、恐れを超えて未知に踏み出すワークだ。2日目の午前中は、いくつかに分かれて海士町のフィールドワークを行った。コクリ！メンバーが海士の仲間の「今」に飛び込んで対話し、仲間の「根っこ」へのつながりを深めていった。

一、自分の「根っこ」とつながる
二、恐れを超えて、未知に踏み出そう
三、仲間と「根っこ」でつながる

2日目午後
潮目を捉え、進化する

2日目の午後は、コクリ！メンバーの1人・ゆかさん（齊藤由香さん）のファシリテーションで、「身体ワーク」や「7世代ワーク」などを実施し、システムを感じ取った後、英輔さんの案内で各自が「進化思考ワーク」に取り組み、GIクリエーションを起こしていった。

四、「身体の声」は可能性の扉
五、自分を巡る大きな環に想いを馳せよう
六、集合的無意識のなかに、
　次の時代のうねりがある
七、信じる世界を、体現しよう

3日目
その先に向けて

3日目は、2日間を振り返りながら、お互いの今とこれからについて、チームメンバーとダイアログ。その後、プロアクションカフェ（具体的なアクションを生み出すための対話の場）を行い、それぞれがこの3日間で創造したアイデアやプロジェクトを応援しあった。

二、恐れを超えて、未知に踏み出そう
三、仲間と「根っこ」でつながる
七、信じる世界を、体現しよう

GI探究ジャーニー in 宮崎県 新富町 しんとみちょう

場所	宮崎県児湯郡新富町
日時	2018年7月14日～16日
参加者	コクリ！メンバー約30名、新富町メンバー約20名

2017年の「こゆ財団」設立で盛り上がる宮崎県新富町でも
コクリ！の場を新たに開催した。

2018年7月、宮崎県新富町で「GI探究ジャーニーin新富町」を開催した。新富町は、2017年に地域商社「こゆ財団」が立ち上がり、盛り上がりを見せる町だ。こゆ財団は1粒1000円の国産ライチの販路開拓や、起業家育成塾などを次々に行って、全国から注目されている。その新富町メンバーにコクリ！メンバーが加わって対話を重ねた。

1日目～2日目午前
新富町と出会う＋仲間と出会う＋進化のヒント探し

1日目は、オープニングゲームの水鉄砲合戦をした後、新富町のライチ農家（森緑園）、ピーマン農家（福山農園）、日本茶専門店（新緑園）を巡った。2日目の午前中は5～6名のチームで、新富町のフィールドワークを実施。午後は、コクリ！メンバーの1人・恵子さん（土屋恵子さん）のファシリテーションで、未知の自分を見つめたり、過去に見た夢から自分の未知の部分を理解したりする「未分化ワーク」を行って、自分や仲間の「根っこ」とつながり、未知に踏み出していく準備をした。

一、自分の「根っこ」とつながる
二、恐れを超えて、未知に踏み出そう
三、仲間と「根っこ」でつながる
四、「身体の声」は可能性の扉

2日目夕方～夜
どっぷり潜って浮上＋こゆ夜市

2日目の夕方は、「社会の進化を探究するワーク」や「進化の歴史に想いを馳せるワーク」を行って、参加者に世界システム全体を感じてもらうと同時に、GIクリエーションに入っていった。また、その夜は、こゆ財団が開催する「こゆ夜市」を楽しみ、仲間たちと親交を深めた。

五、自分を巡る大きな環に想いを馳せよう
六、集合的無意識のなかに、
　次の時代のうねりがある
七、信じる世界を、体現しよう

3日目
GI探究

3日目は、「GI探究」と題して、一人ひとりにGIを探究したり、自己変容の第一歩を踏み出したりしてもらった。

二、恐れを超えて、未知に踏み出そう
三、仲間と「根っこ」でつながる
七、信じる世界を、体現しよう

コクリ！プロジェクトでは、基本的にニックネームで呼び合うことにしているため、記事でも「ニックネーム（本名）」という書き方にしている。

コクリ！メソッド 2018

海士町 対談

2回のコクリ！で外に頼れる人が海士町に増えた

海士町では、2017年4月と2018年9月にコクリ！の場を2回、開催した。その成果をどう感じているのか。海士町側の主催チームの2人（べっく・おかべちゃん）と2018年4月から海士町に住むコクリ！メンバーの英治さんにお話を伺った。

「地域づくりは庭づくりだ」と気づいた

――2回目のコクリ！の場を通して、3人には何か個人的な自己変容がありましたか？

英治　僕は1回目のコクリ！海士がきっかけで、2018年4月から海士町に妻と息子と「親子島留学」をしています。2回目にもそんな大きな自己変容が起きたら大変（笑）。今回は特に変わっていません。

もちろん、海士町に移住したことで気づいたことはいくつもあります。例えば、東京だと帰宅が夜の0時を回ることがよくありましたが、海士町では珍しいんです。そうすると、東京での生活がいかに異様だったかが分かってきます。ずっと東京にいたら、このことには気づけなかったでしょう。海士町に越してきたことで、自分のセンサーはさまざまな刺激を受けています。

英治さん（原田英治さん）

べっく　僕はこの2018年9月に、自分の経営する会社の社名を「風と土と」に変え、従来の地域づくり事業・人材育成事業に加えて、新たに出版事業の検討を始めました。これは、第1回のコクリ！海士で英治さんと出会って、海士町で「ないものはない大学出版会」を始めようと2人で盛り上がったところから生まれたアイデアです。その意味で、僕と僕の会社も、コクリ！の場から大きな変容を起こしました。今は、そのスタートラインに立ったところです。

おかべ　私は今回、「追求したい使命」を発見できました。それは「コミュニティ・ガーデニング」です。

きっかけは、今回のコクリ！の場の2日目に、私が2015年に海士町に来てすぐに植えたみかんの木を見に行ったことです。嬉しいことに、その木はみかんをつけていましたが、周囲には、同時期に植えられたのにまだ実が成っていない木もありました。それを見て、みかんの木は人に似ている、みかん畑はまちに似ていると感じたんです。

みかんの木と同じように、私たちも、花を咲かせたり、実を成らせたりするタイミングは人それぞれです。海士町の地域づくりをする私が、地域の皆さんに無理に花を咲かせることはできません。私ができるのは、一人ひとりが花を咲かすタイミング、実を成らすタイミングを見計らって、応援したり、組み合わせたりすることだけ。つまり、私はまちづくりというより、「庭づくり」をしているのだ」。おかべちゃんの「地域づくり＝ガーデニング」のイメージはピッタリだと思います。

べっく（阿部裕志さん）

英治　僕は、海士町内のメンバーと町外のコクリ！メンバーとのつながりが、さらに強まったことだと思います。そのおかげで、海士町メンバーの活動量が高まる兆しが見えます。

べっく　その通りですね。僕が見る限り、2回のコクリ！のおかげで、海士町内に「外の誰かに頼れる人」が増えました。これは、新たな海士の強みになりつつあります。

例えば、けいすけくん（大野佳祐さん・隠岐島前高校魅力化コーディネーター）は、直樹さん（太田直樹さん・前総務大臣補佐官）たちが立ち上げた新たな教育の実験場「土ラボ」に参加しています。そうしたことがいくつも出てきました。

おかべ　地域は、自分の弱みを見せにくく、何かしようとした時に誰かを頼るのも難しいところがあります。

GI探究ジャーニーin海士町で開かれた「あまちゃん食堂」

変容ポイント①

一人ひとりが自分の使命を知る

コクリ！の場に何度か参加すると、多くの人が自分の使命を新たに見つけたり、自分の使命をより明確にしたりする。例えば、べっくは第1回コクリ！海士で、英治さんと「ないものはない出版会」を立ち上げるアイデアを考え、英治さんの協力のもと、1年後にそれを実行した。おかべちゃんは今回、「コミュニティ・ガーデニング」という自分の新たな使命を見つけた。コクリ！の場では、こうした自己探究・自己変容がいくつも起きている。

10年で一番贅沢な食事を提供した「あまちゃん食堂」

――おかべちゃんが取り組んでいる地域づくり＝コミュニティ・ガーデニングの例を教えてください。

おかべ　例えば、今回の場の1日目の夜、コクリ！メンバーの皆さんをもてなした「あまちゃん食堂」は、組み合わせがうまくいった例だと思います。あまちゃん食堂は、第1回コクリ！海士のときに、海士町で学校給食をつくる小田川さん（小田川啓子さん）が中心となって生み出したアイデアで、海士の食材だけでつくった料理を提供する食堂を始めようというものです。

小田川さんは、海士の子どもたちに海士の食材を中心とした給食を食べてもらいたい、できたら島民の皆さんにもそうしてもらいたいと思っていました。そこに、海士や日本の魚食文化を守りたいという想いをもった海士町漁協のふっじーさん（藤澤裕介さん）を組み合わせたことにより、このプロジェクトは加速的に進み、コクリ！メンバーの皆さんに海士町食材を使った料理を振る舞う一夜限りの「あまちゃん食堂」が実現したのです。

べっく　あの「あまちゃん食堂」の食事は、僕が海士町にいる10年間で一番贅沢でした。中心メンバーの皆さんは、「コクリ！だからここまでやった」と言っていましたね。

おかべ　その後、あまちゃん食堂には別のイベントからも声がかかっていて、彼らは現在、実際にお店を持つことも見据えながら、さらにプロジェクトを展開しようとしています。今回の場で、彼らはその大きな一歩を踏み出したんです。

海士町内のつながりも圧倒的に増えた

――周囲の変化で、何か気づいたことはありますか？

英治　2回開催した最も大きな効果は、海士町内のメンバーと町外のコクリ！メンバーとのつながりが、さらに強まったことだと思います。そのおかげで、海士町メンバーの活動量が高まる兆しが見えます。

べっく　その通りですね。僕が見る限り、2回のコクリ！のおかげで、海士町内に「外の誰かに頼れる人」が増えました。これは、新たな海士の強みになりつつあります。

例えば、けいすけくん（大野佳祐さん・隠岐島前高校魅力化コーディネーター）は、直樹さん（太田直樹さん・前総務大臣補佐官）たちが立ち上げた新たな教育の実験場「土ラボ」に参加しています。そうしたことがいくつも出てきました。

おかべ　地域は、自分の弱みを見せにくく、何かしようとした時に誰かを頼るのも難しいところがあります。

その点、コクリ！では、自分の弱さをさらけ出せますし、チャレンジする時に仲間の皆さんを頼ってよい雰囲気があります。こういう場は地域にとって貴重です。

べっく　あと、コクリ！の場を通して、海士町内のつながりも圧倒的に増えました。例えば、僕は澤さん（澤正輝さん・隠岐島前教育魅力化プロジェクト キャリア教育担当）と親しくなれました。海士町メンバーは、皆そういった出会いがあるはずです。

もちろん、海士町メンバーの自己変容もたくさん起きていて、一例を挙げると、英治さんだと気づいたんです。これからは地域という庭にできるだけ多くの花が咲き、実が成るように、焦らずに丁寧に、コミュニティ・ガーデナーを務めていきたいと思っています。

英治　僕が経営する英治出版の『自己革新』（ジョン・W・ガードナー）という本に、こんな一節があります。「永続的に革新する社会の適切なイメージは、庭園全体やバランスのとれた水槽などの閉じた生態系である。あるものは生まれつつあり、あるものは繁栄し、さらに他のものは死につつある。しかしシステムは生きている」。

変容ポイント②

地域らしさあふれるアイデアを自ら生み出して皆で実行するようになる

あまちゃん食堂の事例で重要なのは、地域のメンバーが結びつき、主体的に行動を起こして、「地域らしさあふれるアイデア」を形にしたことだ。小さな一歩であっても、自分たちの手で前に進むことが、今後の大きな力になる。

その説明には、「トランザクティブ・メモリー」という概念を使うと早いと思います。入山章栄さんの『世界の経営学者はいま何を考えているのか』（英治出版）に出てくる言葉です。

トランザクティブ・メモリーとは、僕の理解では「組織やコミュニティの各メンバーが何を知っているか、何に詳しいか、何が得意なのか」を知っていることです。例えば、「あの魚のことなら、○○さんに聞けばいい」「コーヒーのことは△△さんが詳しい」と分かっていることです。経営学では、社員一人ひとりのトランザクティブ・メモリーの豊富な組織ほど、自分たちの組織の力をよく発揮できると考えられています。個人に根づいた専門知識を、組織が効果的に引き出すことができるからです。

面白いのは、「ある程度の交際期間を経たカップルはトランザクティブ・メモリーを自然と持つようになる」ことです。つまり、トランザクティブ・メモリーを高めるには、互いに深く知り合うことが重要なんです。コクリ！の場は、個人と個人が「根っこ」で深くつながることで、海士町コミュニティやコクリ！コミュニティのトランザクティブ・メモリーを高めていると思います。

べっく　僕はコクリ！コミュニティにいると安心できるんですが、それは「仲間と『根っこ』でつながっている」からですよね。

英治　僕もそうで、必ずしも長く一緒にいるわけではないのに、コクリ！メンバーといると安心します。

危機感ドリブンのまちづくりから脱却しつつある

べっく　それから、これは自分自身も含めての話ですが、最近の海士町は、地域リーダーが自己を犠牲にしながら進める地域づくり、あるいは危機感ドリブンのまちづくりから脱却できつつあると感じています。そういう地域づくり・まちづくりは、一時的にはうまくいくかもしれないけれど、中長期的には地域リーダーたちが疲弊して停滞しますし、まちの危機が遠ざかると、動きが弱まってしまうという欠点もあります。

その点、コクリ！の場からコミュニティを発展させると、地域づくりの持続性が高まります。一人ひとりが自分なりのビジョンを持ちながら、主体的に動くようになるからです。そうして、地域リーダーに頼らない地域、危機感ではなくビジョンドリブンのまちになっていくのです。

変容ポイント④

持続性の高いコミュニティができ上がる

コクリ！2・0の地域づくりが他と大きく違うのは、コクリ！の場をきっかけにして、「持続性の高いコミュニティ」が立ち上がることだ。一人ひとりがビジョンドリブンで主体的に行動を起こすから、リーダーだけに頼る組織よりも持続性が高く、危機が去っても地域変容が続いていく。これは大きな強みだ。

コクリ！の場がなかったら違う人生になっていた

――最後に、3人とも、コクリ！プロジェクトに割と長く関わってもらっていますが、振り返ってみての全体的な感想をお願いします。

英治　『企業創造力』（アラン・G・ロビンソン、サム・スターン　英治出版）は、企業創造力を高める6つの条件として、「意識のベクトルを合わせる」「自発的な行動を促す」「非公式な活動を認める」「セレンディピティを誘発する」「多様な刺激を生み出す」「社内コミュニケーションを活性化する」を挙げています。

コクリ！プロジェクトは、まさにこの6つを実践しています。つまり、コクリ！は、「コミュニティの創造力を高める方法」を磨き続けてきたとも言えるんです。それが地域にも有効だと、海士町で実証しつつあるのではないでしょうか。

べっく　僕の場合、2016年秋に軽井沢で体験したコクリ！の場が自己変容のポイントでした。そのとき、「海士町や会社のみんなと一緒に生きたい」という想いと「自分の好きなように生きたい」という想いに引き裂かれている自分に気づけたんです。あれがなかったら、きっと自分は燃え尽きていたと思います。

また、こうして英治さんから経営者の可能性や、出版ビジネスを行う上で著者と深い関係を築く方法を間近で学べるとは、思ってもみませんでした。この出会いがなかったら、僕は経営者を辞め、会社を畳んでいたかもしれません。

もちろん、コクリ！の場が自己変容のすべてというつもりはありません。日々の仕事や活動、あるいは他のさまざまな出会いも、僕を大きく変えてきました。でも、コクリ！がなかったらと思うと、正直ゾッとします。自分の人生はかなり違ったものになっていたでしょう。

おかべ　この2回のコクリ！の場は、そもそも私が「やりたい」と言い出して阿部に相談し、海士町メンバーの一人ひとりに会いに行って「参加していただけませんか？」と声をかけ、実現させたものです。決して簡単ではありませんでしたが、結果的には「圧倒的な当事者意識」を持ってやり遂げた、と胸を張って言えるプロジェクトになりました。

今後、この経験が、自分の大きな看板になっていくのではないかという気がしています。今は、5年後、10年後に、海士町メンバーの皆さんが活躍する姿を想像するだけで楽しい。いろんなことが起こりそうです。

※インタビュー：三田愛（じゃらんリサーチセンター　研究員）

変容ポイント③

一歩を踏み出す勇気が湧いてくる

実は、コクリ！で対話するなかで、人生の大きな決断をする人は少なくない。海士町に移住した英治さんやホテルの社長に就任した青山さんの他にも、コクリ！の場で、会社を辞めて起業することを決心したメンバー（麻生要一さん）などの例がいくつもある。コクリ！の場に参加すると、勇気が湧いてくるのだ。

おかべちゃん（岡部有美子さん）

株式会社 風と土と
おかべちゃん（岡部有美子さん）

1981年、埼玉県熊谷市生まれ。中央大学総合政策学部卒業後、IT企業に勤務。2015年1月に、巡の環（現・風と土と）に入社し、海士町へ移住。海士町版地方創生総合戦略会議『明日の海士をつくる会』事務局などのまちづくり事業や海士町を舞台とした企業・自治体・大学研修のコーディネート事業を担当。隠岐民謡や祭りの笛などにもチャレンジ中。

英治出版株式会社
代表取締役
英治さん（原田英治さん）

1966年、埼玉県生まれ。慶應義塾大学卒業後、外資系コンサルティング会社を経て、1999年に英治出版を共同創業。創業時から「誰かの夢を応援すると、自分の夢が前進する」をモットーに、応援ビジネスとして出版業を行っている。第一カッター興業社外取締役、AFS日本協会評議員、アショカ・ジャパン アドバイザー。

株式会社 風と土と
代表取締役
べっく（阿部裕志さん）

1978年愛媛県生まれ。京都大学大学院にてチタン合金の研究で修士号を取得後、トヨタ自動車の生産技術エンジニアとして働くが、現代社会のあり方に疑問を抱き、2008年海士町に移住、起業。島の魅力を高める地域づくり事業、島外の企業や自治体、大学の研修を海士町で行う人材育成事業、島産品の販売や海士町の魅力を発信するメディア事業を行う。田んぼ、素潜り漁、神楽などローカルな活動を実践しつつ、イギリス・シューマッハカレッジやドラッカースクール・セルフマネジメントなどのエッセンスを活用した研修プログラムづくり、JICAと提携し海士町とブータンとの交流づくりなど、グローバルな視点も取り入れながら、持続可能な未来を切り拓いている。著書『僕たちは島で、未来を見ることにした』（木楽舎）

変容ポイント⑤

個人が変わることが地域を変える

海士町の地域づくりのリーダーであるべっくが、コクリ！の場などを通して何度も変容したことが、海士町に与えた影響は大きい。例えば、彼が自己犠牲型のリードを止めたことが、地域メンバーの自主性・主体性を確実に高めている。これは、「個人が変わることが地域を変える」ことの典型例だ。個人変容は、本当に地域変容・社会変容につながるのだ。

コクリ！メソッド 2018

新富町 対談

あの日、「一人で頑張る自分」を手放して、すべてが変わった

2018年7月、宮崎県新富町で「G-探究ジャーニー in 新富町」を新たに開催した。新富町側の主催者である「こゆ財団」の潤さん（齋藤潤一さん）、啓二さん（岡本啓二さん）に、どのような場だったのか、どのような変化があったのかを伺った。

コクリ！メンバーと想いが近いことが分かって嬉しい

――開催から2カ月ほど経ちましたが、その後いかがですか？

潤　まずお伝えしたいのは、新富町の参加者の中に、コクリ！がきっかけで変わった方が何人もいることです。例えば、役場の研ちゃん（高山研二さん）は、役場の中で動きを起こそうとしていて、会うたびに「やりますよ！」と声をかけてくれますし、きゅうり農家の太一さん（猪俣太一さん）の動きも変わりました。森さん（森哲也さん）は、以前は「簡単にはいかないよ」が口癖でしたが、最近は「やってみよう」という言葉が増え、今はバニラ栽培に挑戦しています。

潤さん（齋藤潤一さん・こゆ財団 代表理事）

　それとは別に、たじさん（但馬武さん）、こみーさん（小宮山利恵子さん）などのコクリ！メンバーの方々とも、「一緒に何かやろう」という話で盛り上がっています。

　実は、開催1～2カ月前まで宿も開催場所も見つからず、僕自身「今回は止めよう！」と言ったこともありましたが、やってよかったです。

啓二　僕は、コクリ！の場は初めてでした。コクリ！メンバーは有名な方々ばかりでしたが、フラットに接することができたのが嬉しかった。

　例えば、コクリ！メンバーの一人、安宅さん（安宅和人さん・ヤフー株式会社チーフストラテジーオフィサー）と僕ではまったくレベルが違うのですが、抱いている想いや向かう方向が近いことも分かりました。それが分かったのは、3日間も一緒にいられたからです。コクリ！以外ではできない経験だろうと思います。

啓二さん（岡本啓二さん・こゆ財団 執行理事・写真中央）

仲間を信じて任せるようになった

――3日間で最も印象的だったのは、最後に潤さんが涙ぐんだ場面です。どういう想いがあったんですか？

潤　2017年4月にこゆ財団を立ち上げてから、ずっと大変でした。その間、自分が頑張って皆をリードしなくてはという気持ちが強く、無理やり明るく振る舞ってきました。

　大きな気づきがあったのは、「GI探究ジャーニー」の2日目です。その日、僕たちは未分化ワークの1つとして、「夢のワーク」を体験しました。自分がよく見る夢について身体で表現したり、考えたりするワークです。物騒な話ですが、僕はその頃、「誰かを殺す夢」をよく見ていました。夢占いでは、それは「自分を変えたい」という欲望の現れなのだそうです。夢のワークを一緒にやったじゅんじゅん（黒木潤子さん）やふじむー（藤村聡さん）に助けてもらい、僕は「心の底では、一人で頑張る自分を手放したいと思っているんだ」と気づいたんです。そうしたら、すべてが変わりました。

　もう1つ大きかったのは、その夜の「こゆ夜市」で、こゆ財団の仲間たちが頑張っていたことです。その姿を見ながら、「この仲間たちを信じたい」と心から思えた。それが最終日の涙につながりました。

　その日から、僕は仲間を信じて任せるようになりました。今ではこゆ財団の経営も半ば手放しています。

――啓二さんは、潤さんの変化をどう感じていますか？

啓二　正直、今も厳しいことは厳しいんですが、言い方や接し方は、コクリ！を境に明らかに変わりました。例えば、「君を信じて待つ」という言葉が一気に増えました。その意味では、以前とまったく違います。

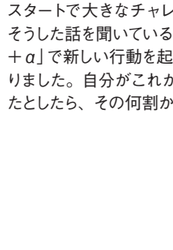
潤　今はただ、「このメンバーと楽しく過ごしたい」という想いが強いです。100年後も、このメンバーの子孫たちが気持ちよく暮らせる新富町を創りたい。そのためにこゆ財団と新富町を盛り上げていきます。

最後に思わず涙ぐむ潤さん

変容ポイント⑥

地域の底に眠る願いや希望をビジョンとして共有するようになる

潤さんに起きた自己変容で最も大きいのは、仲間を信じて任せるようになったこと以上に、地域の願いや希望に深く接し、それをビジョンとして共有し始めたことにあるのではないか。彼はおそらく、「こゆ夜市」で、メンバーやその子孫たちがずっと楽しく過ごす姿を夢に見たのだ。今後、そのビジョンがこゆ財団の原動力となるに違いない。このようにして、地域の底に眠る願いや希望をビジョンとして共有すると、地域コミュニティは強くなっていく。



自分の悩みがちっぽけなことがよく分かった

新富町役場
まちおこし政策課
高山研二さん

正直な話、参加するまでは腰が重かったんです。誘われるまま、半信半疑で参加しました。でも、行ってみたら面白くて驚きました。一番刺激を受けたのは、コクリ！メンバーの皆さんがどのように頑張っているか、どういったことで悩んでいるか、いろいろと話を聞けたことです。自分の視野の狭さや頭の固さ、自分の悩みがちっぽけなことが本当によく分かりました。多くの方が、この場に一度参加するだけで、世の中の見方や気持ちが一変すると思います。

新しい行動を起こしたいという気持ちになった

きゅうり農家
猪俣太一さん

僕は親の仕事を継いで、ずっと新富町できゅうり農家をしています。これからも変わることなくやっていきたいと思ってきました。でも、コクリ！メンバーの皆さんは、転職したり起業したり、ゼロスタートで大きなチャレンジをしている方ばかり。そうした話を聞いているうちに、自分も何か「農業＋α」で新しい行動を起こしたいという気持ちになりました。自分がこれから新しい一歩を踏み出せたとしたら、その何割かはコクリ！のおかげです。

とーりまかし的 考察

日本の中枢で活躍する方々が私たちに深く共感してくれた

7年前、コクリ！プロジェクトを始めたときには、関係資本・信頼資本・文化資本などの「目に見えない資本」の価値や、自分・仲間の「根っこ」とつながることの重要性などを深く理解し、共感していただける方は、正直に言って、決して多くなかった。

しかし、2018年11月に開催した「コクリ！キャンプ2018」では、多くの参加者から「自分や仲間の『根っこ』とつながることの大切さがよく分かった」といった声をいただいた。この中には、元大臣・企業経営者・地方自治体の首長・大学教授など、日本社会の中枢で活躍する方が多数含まれていた。彼らが、「目に見えない資本が大事だ」「未分化、『根っこ』につながること、身体性や集合的なひらめきが大切だ」という私たちのメッセージに、深く共感してくれたのだ。その意味で、日本は大きく変わってきている。そうした変化に合わせて、コクリ！プロジェクトの活動は、この7年で市民権を得ることができた。そのことを本当に嬉しく思う。

一方でその間、私の願いは基本的には変わっていない。私は、私たち全員に、生まれ持ったギフトがあると信じている。一人ひとりが、この時代、この場所に生まれた意味を実感し、使命を果たしながら生き切って、世界全体がハーモニーとコ・クリエーションを起こすようになったら、きっと地域や世界が進化する「集合的ひらめき」がいくつも出現すると信じている。

じゃらんリサーチセンターでさまざまな地域に出会ったことで、こうした願いや確信はより一層深まった。天の采配に深く感謝している。

今後も、世界全体がハーモニーとコ・クリエーションを起こす未来を目指しながら、皆さんと歩みを続けていきたい。

じゃらんリサーチセンター
研究員
三田 愛
人材育成、地域力開発を専門とし、地域変革支援を研究。米国CTI認定プロフェッショナル・コーチ